

日本歯周病学会 第 69 回 歯科衛生士教育講演会 報告

1. 研修会名：日本歯周病学会第 69 回歯科衛生士教育講演会（日本歯科衛生士会 第 4 次生涯研修）
2. 主催：特定非営利法人 日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）
3. 協力：山梨県歯科衛生士会
4. 日時：平成 28 年 11 月 20 日（日）10:00～16:00（受付 9:30～）
5. 山梨県歯科医師会館 3F
山梨県甲府市大手 1 丁目 4-1
6. 演題：①「患者さんとのコミュニケーション、とれてますか？～禁煙支援と行動変容を考える～」
②「歯科衛生士として患者さんに説明できますか？～口腔機能回復療法とは～」
7. 講師：渋谷 俊昭（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員長）
野村 正子（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員）
8. 研修単位：①②の両方に該当する場合は、それぞれの単位取得が可能
 - ①日本歯周病学会会員の場合
 - ・認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位（8 単位）
 - ・更新時の生涯研修単位（10 単位）
 - ②日本歯科衛生士会会員、会員外の場合
 - ・第 4 次研修制度に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術）

IV-B 行動変容に必要な知識と技術	1 単位
IV-C 禁煙支援	1 単位
VI-C 口腔機能回復療法について	2 単位

9. 内容：

受講者は 79 名であった。日本歯周病学会会員は 17 名で、日本歯科衛生士会員は 54 名であった。日本歯周病学会認定歯科衛生士の参加者は 9 名で、そのうちの 1 名が山梨県でただ 1 人の認定歯科衛生士であった。県外からの参加が多かったことが推測される。

まず、野村委員より、心理学における「行動変容」の説明が行われた。そして Prochaska の健康行動の行動変化のステージ理論を元に「糖尿病治療の支援」「歯周治療の支援」「禁煙支援」について概説した。医療者は相手の病態だけをみて支援しがちだが、心理学の立場では相手の心の準備状態に焦点をあてて支援する。演習は「簡易ストレス度チェックリスト（桂・村上版）（SCL-KM）」を実施し解説した。患者さんとのコミュニケーションをとる上で、まず自分の状態を知ることは大切である。

次に、渋谷委員長より、口腔機能回復療法について、豊富なパワーポイントと動画により講義があった。歯周治療の流れから、歯周外科治療後に行う、咬合治療、修復・補綴治療、矯正治療、インプラント治療について概説した。今後の再生治療の可能性や、混乱しやすい外傷性咬合と咬合性外傷の違い等の説明も行われた。山梨県内の認定歯科衛生士が現在 1 名のみであることから、日本歯周病学会認定歯科衛生士取得への鼓舞啓発も行われた。

アンケート結果によれば、日本歯周病学会認定歯科衛生士取得希望者は 16 名であった。今後、県内の認定歯科衛生士を中心に症例検討会等を開催する動きもあるようである。認定歯科衛生士が 1,000 名に達した節目となる歯科衛生士教育講演で、多数の参集をいただいた事業となった。

